

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	短期大学の学科の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホカジニッポンシカダガク								
フリガナ大学の名称	ニッポンシカダガククニイガクタンキョガク								
大学本部の位置	新潟県新潟市中央区浜浦町1丁目8番地								
大学の目的	学校教育法の精神に基づき、歯科衛生及び歯科技工に関する専門の知識と技術を教授研究し、高度な歯科衛生士及び歯科技工士の育成を図る。								
新設学部等の目的	医学の一領域・人体の健康を担当する医療人として、知識と技術と倫理観、すなわち学・術・道を兼ね備えた歯科技工士を養成する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地
	歯科技工学科	2年	20人	年次人 -	40人	短期大学士（歯科技工学）	保健衛生学関係	令和7年4月第1年次	新潟県新潟市中央区浜浦町1丁目8番地
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	日本歯科大学東京短期大学 歯科衛生学科[定員増]70→80（△10） 歯科技工学科[定員減]35→20（△15） ※令和7年4月入学定員変更								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	歯科技工学科	講義	演習	実験・実習	計	78単位			
		26科目	10科目	10科目	46科目				
新設部分	学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）
			教授	准教授	講師	助教	計		
	歯科技工学科		3 (3)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	6 (6)	1 (1)	6 (6)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの		3 (3)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	6 (6)	大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 3人	
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位数以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	小計（a～b）		3 (3)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	6 (6)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位数以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位数以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	計（a～d）		3 (3)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	6 (6)		
	計		3 (3)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	6 (6)		1 (1)

既 設 分	歯科衛生学科		2 (2)	2 (2)	1 (1)	3 (3)	8 (8)	0 (0)	20 (20)	大学設置基準別 表第一イに定め る基幹教員数の 四分の三の数 5人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの		2 (2)	2 (2)	1 (1)	3 (3)	8 (8)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）		2 (2)	2 (2)	1 (1)	3 (3)	8 (8)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）		2 (2)	2 (2)	1 (1)	3 (3)	8 (8)			
計		2 (2)	2 (2)	1 (1)	3 (3)	8 (8)	0 (0)			20 (20)
合 計		5 (5)	4 (4)	2 (2)	3 (3)	14 (14)	1 (1)	26 (26)		
職 種		専 属			そ の 他		計			
事 務 職 員		4 (4)			21 (21)		25 (25)			
技 術 職 員		0 (0)			3 (3)		3 (3)			
図 書 館 職 員		1 (1)			1 (1)		2 (2)			
そ の 他 の 職 員		0 (0)			3 (3)		3 (3)			
指 導 補 助 者		0 (0)			5 (5)		5 (5)			
計		5 (5)			33 (33)		38 (38)			
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計			日本歯科大学 新潟生命歯学部 との共用分を含 む	
	校 舎 敷 地	0㎡	64,714.72㎡	0㎡		64,714.72㎡				
	そ の 他	0㎡	3,409.50㎡	0㎡		3,409.50㎡				
	合 計	0㎡	68,124.22㎡	0㎡		68,124.22㎡				
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計		日本歯科大学 と共用		
		2,734.91㎡ (2,734.91㎡)	7,500.23㎡ (7,500.23㎡)	19,606.16㎡ (19,606.16㎡)		29841.30㎡ (29841.30㎡)				
教室・教員研究室		教 室	7室		教 員 研 究 室	6室		大学全体		
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	電子図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	機械・器具 点	標本 点	日本歯科大学 新潟生命歯学部 との共用分を含 む		
	歯科技工学科	68,090 [24,278] (68,090 [24,278])	0 [0] (0 [0])	11,126 [9,016] (11,126 [9,016])	10,265 [8,808] (10,265 [8,808])	150 (150)	120 (120)			
	計	68,090 [24,278] (68,090 [24,278])	0 [0] (0 [0])	11,126 [9,016] (11,126 [9,016])	10,265 [8,808] (10,265 [8,808])	150 (150)	120 (120)			
スポーツ施設等		スポーツ施設		講 堂		厚生補導施設		大学全体		
		849.60㎡		1,167.10㎡		1766.48㎡				

経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	教員1人当り研究費等		350千円	350千円	-千円	-千円	-千円	-千円		
	共同研究費等		-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円		
	図書購入費	3,300千円	3,300千円	3,300千円	-千円	-千円	-千円	-千円		
	設備購入費	104,638千円	19,755千円	4,103千円	-千円	-千円	-千円	-千円		
	学生1人当り納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
学生納付金以外の維持方法の概要	手数料収入等									
既設大学等の状況	大学等の名称	日本歯科大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
	生命歯学部 新潟生命歯学部	年 6	人 160	年次 若干名 2年次 若干名	人 960	学士(歯学) 学士(歯学)	倍 0.81 0.50	明治40年度 昭和47年度	東京都千代田区富士見一丁目9番20号 新潟県新潟市中央区浜浦町1丁目8番地	
附属施設の概要	名称：日本歯科大学附属病院 目的：診療・教育・研究 所在地：東京都千代田区富士見2丁目3番地16号 設置年月：昭和62年9月30日 規模等：土地2,945㎡,建物1,844㎡									
既設大学等の状況	大学等の名称	日本歯科大学東京短期大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
	歯科技工学科 歯科衛生学科	年 2 3	人 35 70	年次 人 -	人 70 210	短期大学士(歯科技工学) 短期大学士(歯科衛生学)	倍 0.41 0.89	平成17年度 平成17年度	東京都千代田区富士見二丁目3番16号	
附属施設の概要	名称：日本歯科大学新潟病院 目的：診療・教育・研究 所在地：新潟県新潟市中央区浜浦町1丁目8番地 設置年月：昭和47年4月19日 規模等：土地5,206.19㎡,建物5,206.19㎡									
既設大学等の状況	大学等の名称	日本歯科大学新潟短期大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
	歯科衛生学科	年 3	人 50	年次 人 -	人 150	短期大学士(歯科衛生学)	倍 1.11	昭和62年度	新潟県新潟市中央区浜浦町1丁目8番地	
附属施設の概要	該当なし									

教育課程等の概要															
(歯科技工学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎分野	英語Ⅰ	1前		1				○							1
	英語Ⅱ	1後		1				○							1
	コミュニケーション技法	1前		1				○							1
	情報リテラシー	1前	○	1				○		1	1				1
	デジタル医療機器演習	1後	○	1				○							1
	健康科学	1前	○	1				○		1					1
	歯科造形芸術概論	1前	○	1				○			1				1
小計（7科目）	—	—	—	7	0	0	—	—	2	2				4	
専門基礎分野	専門歯科治療概論	2前	○	1				○		1					
	早期体験演習	1前	○	1				○			1				
	歯科技工管理学	1後	○	1				○		1					1
	歯科技工士と関係法規	2前	○	1				○		1					1
	歯科技工学概論	1前	○	1				○		1					1
	歯の解剖学	1前	○	2				○		1		1			
	顎顔面解剖学	2前	○	1				○		1					
	歯形彫刻概論	2前	○	1				○		1					
	口腔解剖学実習	1前	○	2				○	○	1					
	顎顔面解剖学演習	2前	○	1				○	○	1					
	歯形彫刻実習	2前	○	1				○	○	1					
	顎口腔機能学Ⅰ	1前	○	1				○		1					
	顎口腔機能学Ⅱ	1後	○	1				○		1					
	顎口腔機能学演習	1後	○	1				○	○	1					
	歯科理工学Ⅰ	1通	○	4				○							1
	歯科理工学Ⅱ	2前	○	2				○							1
	歯科理工学Ⅲ	2後	○	1				○							1
歯科理工学実習	1前	○	1				○	○						1	
総合講義（専門基礎分野）	2後	○	1				○		3	2	1		1	4	
小計（19科目）	—	—	—	25	0	0	—	—	3	2	1		1	4	
専門分野	有床義歯技工学Ⅰ	1前	○	2				○							1
	有床義歯技工学Ⅱ	2前	○	2				○		1					
	有床義歯技工学Ⅲ	2後	○	1				○		1					
	有床義歯技工学実習Ⅰ	1通	○	6				○							1
	有床義歯技工学実習Ⅱ	2前	○	2				○			1				
	有床義歯技工学演習	2後	○	1				○							1
	歯冠修復技工学Ⅰ	1前	○	2				○							1
	歯冠修復技工学Ⅱ	2前	○	2				○			1				
	歯冠修復技工学Ⅲ	2後	○	1				○							
	歯冠修復技工学実習Ⅰ	1通	○	6				○		1					1
	歯冠修復技工学実習Ⅱ	2前	○	2				○			1				
	歯冠修復技工学演習	2後	○	1				○			1				
	矯正歯科技工学Ⅰ	1後	○	1				○		1					
	矯正歯科技工学Ⅱ	2後	○	1				○		1					
	矯正歯科技工学実習	2前	○	1				○		1					
	小児歯科技工学Ⅰ	1後	○	1				○		1					
	小児歯科技工学Ⅱ	2後	○	1				○		1					
	小児歯科技工学実習	2前	○	1				○		1					
	歯科技工実習	2通	○	11				○				1		1	
	総合講義（専門分野）	2後	○	1				○		3	2	1		1	4
小計（20科目）	—	—	—	46	0	0	—	—	3	2	1		1	4	
合計（46科目）	—	—	—	78	0	0	—	—	3	2	1		1	6	
学位又は称号	短期大学士（歯科技工学）			学位又は学科の分野			保健衛生学関係								
卒業・修了要件及び履修方法									授業期間等						
修業年限である2年以上在学し、必修78単位（基礎分野7単位・専門基礎分野25単位・専門分野46単位）以上を修得した者について、教授会の議を経て学長が卒業を認定									1学年の学期区分			2学期			
									1学期の授業期間			15週			
									1時限の授業の標準時間			80分			

授 業 科 目 の 概 要				
(歯科技工学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎分野	英語 I		外国語を学ぶことは教養を身につけるという意味ではもちろん、特に医療を志す者にとって、第一には外国語の良い教科書、文献を読むため、第二には外国語で知識や情報を交換するために必要不可欠なことである。健康・医療に関する英文を通して英語の基礎を修得する。WHOの健康の定義など、基本的な保健医療福祉に関する国際的な定義の多くは英語で定義されており、一般的な口語的英語と専門的記述英語の両面から語彙力を蓄え読解力を高める必要があり、段階的に専門性の高い文章の解釈を行う。	
基礎分野	英語 II		教養としての英語会話力や読解力を身につけるという意味ではもちろん、特に医療を志す者にとって、第一には外国語の良い教科書、文献を読むため、第二には外国語で知識や情報を交換するために必要不可欠なことである。健康・医療に関する英文を通して英語の基礎を修得する。実際の歯科臨床場面を想定し、歯科技工士が遭遇しやすい英語での情報交換が円滑になるように、歯科技工領域の工業的、手技的、形態的な英語表現法などを段階的に経験し、歯科英語の基礎的理解を深める。	
基礎分野	コミュニケーション技法		患者や協働する医療従事者との良好な人間関係を構築し、全人的医療並びに円滑なチーム医療を遂行するために、医療人として具備すべきコミュニケーション技法を修得する。歯科技工士は患者との間の医療面接の機会は限られるが、協働する多職種の間でコミュニケーションを良好に保つことが医療サービスの向上につながる点を理解し、実践が可能なような基礎技術を修得する。特に相手の話の傾聴、問題点を改善するための婉曲的な表現など、職種間相互理解の向上に寄与する技法を修得する。	
基礎分野	情報リテラシー	○	情報化社会においては、的確に情報を収集し選択するスキルが必要である。テキスト情報の操作は業種によらず社会人には不可欠な技能であり、WindowsOS環境にてWord等の機能を学び、データの保存形式や表現力など視覚的表現を含め実践的なテキスト操作技術を習得する。情報リテラシーとは、自己に有用な情報を取捨選択して自己に有意義に活用できるスキルを指しており、PCやスマホといった身近な機材で経験できる情報リテラシーの向上に関するグループ形式セミナーを行う。	主要授業科目
基礎分野	デジタル医療機器演習	○	将来、歯科技工士として医療にたずさわる上で、次世代歯科医療の中核となるデジタル医療機器の概要を理解する事が求められている。新たなDigital Dentistry業務に耐える専門性と対応力を持つ歯科技工士を養成する基礎技術を修得するために、本演習では、中核機器である3Dスキャナ・CAD・3Dプリンター・ミリングマシン等により、形状作成に関する基本操作から出力まで学ぶ。また、医院管理ソフトといった情報共有、情報セキュリティの技術的基礎も体験する。	主要授業科目
基礎分野	健康科学	○	地域包括ケアシステムの中で在宅訪問歯科での歯科技工業務に対応するスキルを持ち、歯科医療従事者として備えるべき健康の障害要因や公衆衛生、感染症対策、社会保障に関わる諸問題や最新情報を把握するために、予防医学の基礎や疫学的視点から健康増進や疾病予防に関する手法の基礎を学ぶ総論的な講義内容で構成されている。広くわが国の社会保障の視点から歯科技工の専門性を理解し、歯科医療現場や地域の連携システムのなかで必要な知識を修得する。	主要授業科目
基礎分野	歯科造形芸術概論	○	歯科技工士として審美的感覚を養うために、物体の観察方法、形態再現方法、造形表現方法および色彩に関連する専門性を理解する。また、自己研鑽能力を身につけるために、制作過程を振り返り、評価する。一般的な美や美的表現は、芸術的な感性を磨く点から始まり、表現力を高め写実性を追及することが重要である。特に歯科技工士の求められる造形的な3次元的な再現力を磨く必要性から、その基礎となる概論的な芸術論、デザイン論といった概論を学習する。	主要授業科目
専門基礎分野	専門歯科治療概論	○	現在、歯科医療は多様な場面で必要とされ、その領域は広い。しかし、歯科で標榜できる診療科目として医療法に規定されているのは、歯科・矯正歯科・小児歯科・歯科口腔外科のみである。この4科は一般にも知られているが、歯科の中には高度な知識や技術を必要とする専門的な分野も多い。専門歯科治療概論では、日本歯科大学新潟病院に設置されている診療科・特殊外来・診療センターの概要や関連する基本事項を学ぶことにより、患者のニーズに沿った専門的歯科治療の理解を深める。	主要授業科目 オムニバス
専門基礎分野	早期体験演習	○	新潟病院の歯科技工士の業務の実際を見学し、歯科技工業務の意義を確認し、歯科技工管理や歯科臨床における歯科技工士の役割を認識し、学習意欲を高める。専門化が進行した現代の医療では、歯科においても多数の専門外来が開設され、専門医を取得した歯科医師による高度医療が提供されている。その一方で、包括歯科としての総合歯科や在宅訪問歯科といった統合的な医療提供スタイルも存在しており、歯科臨床現場における医療システム、職種間協働といった現場体験からプロフェッションとしての使命を考究する。	主要授業科目 オムニバス

専門基礎分野	歯科技工管理学	○	歯科技工士としての業務を適切に遂行するために、歯科技工士法、歯科医師法、医療法、医薬品医療機器等法に関する知識を身につけ、歯科医療管理の視点で歯科技工所の開設や管理、設備管理および感染制御等に関する基礎的知識を修得する。歯科医療・歯科技工管理は実際に診療を行うに当たって、いかにして歯科学を臨床に応用するかを考究することを目的とし、時代の要求から従来の診療所、技工所のみにとどまらず社会の中での歯科のありかたを考察する社会歯科学的視点からの講義体系で構成される。	主要授業科目
専門基礎分野	歯科技工士と関係法規	○	歯科技工業務を遂行し、積極的に法を守る態度を養うため歯科技工士法、歯科技工士法、歯科医師法、医療法および衛生行政、保健衛生に関する法的な知識を修得する。歯科技工士法は、歯科技工士の資格を定めるとともに、歯科技工の業務が適正に運用されるように規律し、もって歯科医療の普及及び向上に寄与することを目的とする法である。その法の理念や規定を理解し、歯科技工士が遵守すべき業務や免許に関する基礎的知識を学ぶ。併せて歯科技工所の開設や管理についても開設する。	主要授業科目
専門基礎分野	歯科技工学概論	○	歯科技工士として歯科医療に携わるために必要となる医療の仕組みや歯科技工業務について理解するとともに顎口腔系の機能とその回復方法、使用材料や器材の概要、歯科技工士に必要な感染症予防対策を学ぶ。歯科医療の特性から歯科技工物の必要性を理解し口腔機能や口腔に関する審美性といった技工物の基本的要件を学修する。また、歯科技工に必要な材料の管理や安全性、歯科技工物の品質管理、歯科技工室の衛生管理や安全管理についての基本的事項を学修する。	主要授業科目
専門基礎分野	歯の解剖学	○	歯科技工士にとって歯の形態的特徴を理解することは、最も基本的な知識である。歯科技工物は解剖学的形態を基本としており、そのため永久歯・乳歯の一般的形態に関する専門用語や基礎的事項を身につけ、歯種間、上・下顎、左右側、および位置の違いにみられる形態的差異に関する知識を修得する。歯種別に歯冠形態を基本5面からの観察による特徴を列記し、そのような形態である機能的理由や、喪失して補綴処置する場合に歯列形態として考慮すべき事項を学修する。	主要授業科目
専門基礎分野	顎顔面解剖学	○	歯科技工に必要な知識は、歯のみにとどまらず顎口腔や頭頸部に関するものも含まれる。上下顎骨や歯周組織も含め、歯とその周辺組織の形態的特徴を理解するために、歯と歯周組織の微細構造と発生に関する基礎的知識を修得する。小児や高齢者も歯科医療の対象であるため、歯の発生や交換、加齢変化、無歯顎の特徴に関する基礎知識や、歯を支える歯根部、歯周組織、顎関節までを含めた解剖学、組織学、発生学に関わる基礎的事項を学修する。	主要授業科目
専門基礎分野	歯形彫刻概論	○	歯形彫刻は歯科技工士に必須の基本的技能として国家試験の実地試験にも含まれている。歯の形態学的特徴を3次的に理解する歯型彫刻に関連する基本知識と彫刻で再現する技能を習得する。歯の解剖学や口腔解剖実習で学修した知識をふまえ、いずれの歯種であっても形態が正確に彫刻可能なように歯冠形態の再現手法を学修する。学修した各歯種の形態を基本として、補綴物のデザイン等に応用する基礎技術を学修する。	主要授業科目
専門基礎分野	口腔解剖学実習	○	顎顔面口腔領域を構成する頭蓋骨模型のスケッチを実施することで、頭頸部の解剖学的知識を確認する。頭蓋骨は顎口腔部の骨以外にも多くの骨で構成されており、筋肉や神経、血管などが多数存在する部位でもある。複雑な頭頸部の解剖の基礎として、実際に骨格標本や頭蓋骨模型をスケッチして形態や周囲骨との構成位置、顎関節構造などの特徴を把握する。また、骨形態と連動する筋機能との関連についても考究する。	主要授業科目
専門基礎分野	顎顔面解剖学演習	○	歯科の対象領域には顔面部も含まれている。口腔外科手術後の顎補綴に代表される医療にも歯科技工士は関与する。そのため頭頸部および顎顔面口腔領域を構成する骨、筋、顎関節、口腔の形態を認識し、器官相互の関連性を模型・粘土を用いて3次的に理解する。演習として開口閉口といった基本機能に応じた神経、筋の作用を理解し、頭頸部の筋肉も関与する理由について理解する。	主要授業科目
専門基礎分野	歯形彫刻実習	○	歯形彫刻は歯科技工士に必須の基本的技能として国家試験の実地試験にも含まれている。歯の形態学的特徴を3次的に理解する歯型彫刻実習は基本的な歯冠形態の再現性を担保する基本的な技能である。本実習では永久歯の歯冠形態を再現するために、上顎前歯、上下顎臼歯の計測、スケッチを行い、各スケッチした歯の彫刻を実施する。歯形彫刻の各ステップをステップ模型の観察から把握し、効率的で精密な彫刻法を学修する。	主要授業科目
専門基礎分野	顎口腔機能学 I	○	歯科治療の目的は口腔の諸機能の回復と残存組織の保全の両立を図ることであり、患者さんの顎口腔系の形態ならびに機能のいずれにおいても調和した安全な治療を行うことが重要となる。本講義では、歯科補綴治療の目的を達成するために必要な顎口腔系の形態と機能を理解し、そのうえで患者固有の形態と機能に調和した補綴装置とはどのようなものかを考える。	主要授業科目

専門基礎分野	顎口腔機能学Ⅱ	○	歯科治療の目的は口腔の諸機能の回復と残存組織の保全の両立を図ることであり、患者さんの顎口腔系の形態ならびに機能のいずれにおいても調和した安全な治療を行うことが重要となる。本講義では、歯科補綴治療の目的を達成するために必要な顎口腔系の形態と機能を理解し、そのうえで患者固有の形態と機能に調和した補綴装置とはどのようなものかを考える。	主要授業科目
専門基礎分野	顎口腔機能学演習	○	歯科治療の目的は口腔の諸機能の回復と残存組織の保全の両立を図ることであり、患者さんの顎口腔系の形態ならびに機能のいずれにおいても調和した安全な治療を行うことが重要となる。本演習では講義で修得した顎機能と補綴物の形態の関係を実際に補綴装置製作に用いる器材を使用して理解し、顎機能を補綴装置の形態や咬合にどのように適用するかを習得する。	主要授業科目
専門基礎分野	歯科理工学Ⅰ	○	口腔内における機能性、審美性及び安全性を有する補綴装置を製作するため、歯科技工士として必要である歯科理工の用語、歯科器材の用語、歯科材料の組成、特性及びそれらの使用方法について理解する。歯科材料等の理工学的特徴を理解し、歯科技工物の精密性を担保するための方法論的・科学的背景を学ぶ。また、歯科技工に用いる機械・器具について、管理に必要な基本的な知識を修得・理解する。	主要授業科目
専門基礎分野	歯科理工学Ⅱ	○	歯科理工学とは、歯科材料等の理工学的特徴を理解し、歯科技工物の精密性を担保する科学的背景を領域とする学問体系である。歯科理工学における各論分野を理解するため、第1学年で学習した歯科理工学の基礎的な内容をさらに深めると同時に、他の基礎や臨床科目の講義や実習で得た歯科材料に関する知識と経験を総合的に修得する。	主要授業科目
専門基礎分野	歯科理工学Ⅲ	○	歯科理工学の総論的事項と各論的事項を身につけるためアウトプットメインの講義形態とし、包括的に内容を理解する。成形や加工といった最新の技術的背景や、デジタル化された歯科技工体系の利点、欠点について修得する。歯科材料の日常的使用者である歯科技工士に必要な、精度管理、技工物の品質管理に関する基本的事項を学習する。	主要授業科目
専門基礎分野	歯科理工学実習	○	自らが使用する歯科材料の特徴を知らずして歯科技工業務は成立しない。生体に対して安全で、適合性に優れた補綴物を製作するために、歯科用材料個々の特性を実験により理解する。また、論理的思考を身につけるために、実験結果をグラフ化し、歯科理工学的視点から考察する。また、歯科技工物には線材料もあり、硬度やひずみ、稠度といった理工学的指標の特徴を理解する。	主要授業科目
専門基礎分野	総合講義（専門基礎分野）	○	総合講義では、これから歯科技工士国家試験を受験するにあたり、今まで科目単位で学んできた知識を専門職として必要な知識、すなわち「歯科技工学」として各自が統合を行う。歯科技工士国家試験を見据え、より深い知識を履修・復習する。演習問題に回答し自己採点を実施するサイクルを継続することで、重要性の高い事項に関する知識の定着を図る。	主要授業科目 オムニバス
専門分野	有床義歯技工学Ⅰ	○	歯科補綴治療の目的は人工物（補綴装置）を用いた口腔の諸機能の回復と残存組織の保全であり、その治療対象は極めて広く治療内容も多種多様である。本演習では、まず歯科補綴治療の目的を達成するために必要な顎口腔系の形態と機能を理解し、そのうえで患者固有の形態と機能に調和した補綴装置とはどのようなものかを考える。また、有床義歯製作の治療手順を学び、各臨床ステップにおける技工操作法と器材の取り扱い法について修得する。	主要授業科目
専門分野	有床義歯技工学Ⅱ	○	歯科補綴治療の目的は人工物（補綴装置）を用いた口腔の諸機能の回復と残存組織の保全であり、その治療対象は極めて広く治療内容も多種多様である。本演習では、まず歯科補綴治療の目的を達成するために必要な顎口腔系の形態と機能を理解し、そのうえで患者固有の形態と機能に調和した補綴装置とはどのようなものかを考える。また、有床義歯製作の治療手順を学び、各臨床ステップにおける技工操作法と器材の取り扱い法について修得する。また、今後さらに重要となる訪問歯科診療における歯科技工士の役割と、他の専門職との多職種連携に必要な知識と技術を修得する。	主要授業科目
専門分野	有床義歯技工学Ⅲ	○	これまでの有床義歯技工学の履修内容を復習し、各症例に関連した試験問題を解きながら、国家試験合格のために必要な知識を身につける。床義歯の設計や咬合採得、人工歯の配列、レジンや金属による床の特徴を理解し対象者に最適な設計、最終技工物の作成のまで各臨床ステップにおける技工操作法を把握し、完成（患者さんへの装着）までの期間を考慮した一貫性のある、技能形成的な教育を実施する。	主要授業科目

専門分野	有床義歯技工学実習Ⅰ	○	歯科補綴治療の目的は人工物（補綴装置）を用いた口腔の諸機能の回復と残存組織の保全である。本実習では超高齢社会における患者の求める有床義歯についての理解を深めるために、全部床義歯・部分床義歯の製作方法と失われた諸機能と顔貌の回復方法を修得する。また、金属やレジンといった義歯床の材料の違いにより製作方法にどのような差異が生じるのかを比較して理解する。	主要授業科目
専門分野	有床義歯技工学実習Ⅱ	○	歯科補綴治療の目的は人工物（補綴装置）を用いた口腔の諸機能の回復と残存組織の保全である。本実習では超高齢社会における患者の求める有床義歯についての理解を深めるために、全部床義歯・部分床義歯の製作方法と失われた諸機能と顔貌の回復方法を修得する。本実習においては、義歯の応用編として、インプラント義歯や、即時義歯、ノンクラスプデンチャーといった各種補綴物に関しても技法を学修する。	主要授業科目
専門分野	有床義歯技工学演習	○	全部床義歯・部分床義歯の製作を通して習得した基礎的実習を基に、臨床の各ステップ（咬合器装着、人工歯排列、重合、人工歯削合など）に準じた実践的な技術を修得する。有床義歯の製作を通して、人々の健康に寄与できる歯科技工士となるために、有床義歯技工操作手技の基礎的事項を修得する。また、国家資格を取得するために必要な実技試験に対応した技術を身につける。	主要授業科目
専門分野	歯冠修復技工学Ⅰ	○	歯冠修復物の製作を通して、人々の健康に寄与できる歯科技工士となるために、歯冠や歯の欠損に対する歯冠修復技工学の概要や目的を理解し、歯冠修復技工における基礎的事項と臨床の応用を修得する。各種歯冠修復物およびブリッジの製作に関する知識および技術、補綴物の概要と生物学的要件、構造力学的要件等について学修する。	主要授業科目
専門分野	歯冠修復技工学Ⅱ	○	歯冠や歯の欠損を回復するために、保存修復学、歯科補綴学、歯冠修復技工学について理解し、歯科技工に必要な基礎的事項と臨床的事項を理解する。主な講義項目としては、印象用トレー、テンポラリークラウン、クラウン、ブリッジ、インレー、アンレー、一部被覆冠、インプラントなどで、CAD/CAM冠の製作方法についても学修する。	主要授業科目
専門分野	歯冠修復技工学Ⅲ	○	これまでの基礎、臨床系講義と実習等で修得した歯冠修復に関する基礎的な内容の解説に加え、関連した試験問題を解きながら国家試験合格のために必要な知識と歯冠修復技工学の総合力を身につける。特に、複雑で理解し難い各種咬合器の原理や、異なる材料による審美的回復法に関する基礎的知識、鑄造欠陥の原因など、状況設定問題に対応可能な応用力を修得する。	主要授業科目
専門分野	歯冠修復技工学実習Ⅰ	○	歯冠修復物の製作を通して、人々の健康に寄与できる歯科技工士となるために、歯冠修復技工操作の各種手技の基礎的事項を実際に修得する。また、印象や咬合の採得、支台築造といった臨床現場での修復治療前の治療ステップについても歯科技工士として必要な知識を修得する。歯冠修復を主体とした歯科治療に沿った補綴装置によって異なる製作法（陶材の築盛やレジン前装を含む）について理解を深める。	主要授業科目
専門分野	歯冠修復技工学実習Ⅱ	○	歯冠修復物に求められる顎口腔系の機能・審美性を回復するために、講義から得た知識に基づき、歯冠修復物の製作技術を修得する。主な実習項目としては審美的回復や咬合の付与、技工物に生じる不具合の原因などである。最終的な患者さんへの装着までをイメージした実践的な経験の構築を目標とし、口腔や咬合、全身状況、セルフケア環境の異なる症例への対処法についても学修する。	主要授業科目
専門分野	歯冠修復技工学演習	○	歯冠修復物の製作を通して、人々の健康に寄与できる歯科技工士となるために、歯冠修復技工操作の各種手技の基礎的事項を演習的な手法を中心に修得する。歯科技工における精度管理や検査結果の技工物への反映など、実践的な症例演習を含む。また、国家資格を取得するために必要な実技試験に対応した技術を身につける。	主要授業科目
専門分野	矯正歯科技工学Ⅰ	○	矯正歯科技工学における基本的概念を理解するために、矯正歯科治療の流れと矯正歯科技工との関連を身につけ、動的矯正装置・静的矯正装置について分類、目的、装置の構成および製作法を理解し実践できるようにする。また、歯科矯正治療で使用される矯正用模型、各種ワイヤー、線屈曲専用の歯科技工器具の名称、使用目的に関する基礎的知識を学修する。	主要授業科目

専門分野	矯正歯科技工学Ⅱ	○	矯正歯科技工学の総論的事項と各論的事項を身につけるために、問題を解き、その内容を理解する。矯正歯科治療の意義と目的、矯正装置の目的と装置の構成に関する知識、矯正装置の製作に関する知識を中心に歯科理工学的な事項を踏まえた矯正力による歯の移動の原理と、適正な矯正装置の要件を学修する。	主要授業科目
専門分野	矯正歯科技工学実習	○	矯正歯科治療において適切な装置を製作するために、基本的手技を理解し、動的・静的矯正装置の製作方法を修得する。矯正装置の作成に必要なブライヤー各種の名称、特徴を理解し、材料によって異なる操作法に慣熟し、適正な加圧が可能な状態か、製作した技工物を自己評価する。また、保定の目的や装置について修得する。	主要授業科目
専門分野	小児歯科技工学Ⅰ	○	小児歯科では、歯列の変化に合わせた小児、矯正に共通した歯科技工物が必要とされる。特に小児歯科医療において、適切な時期に必要な咬合誘導を実施するために小児歯科診療の流れと小児歯科技工との関連を修得し、咬合誘導装置について各々の目的、構成および製作方法を身につける。また、指しゃぶりの歯列への影響の排除法など、習癖除去装置に関する知識を学修する。	主要授業科目
専門分野	小児歯科技工学Ⅱ	○	小児歯科技工学の総論的事項と各論的事項を身につけるために、演習問題を解き、その内容を理解する。小児に特有な歯科治療の特徴を理解し、健全な歯列形成に必要な要件を学修する。主要な講義項目としては、歯の萌出と交換、修復物、保隙装置、スペーススリゲーター、習癖除去装置に関して学修する。	主要授業科目
専門分野	小児歯科技工学実習	○	小児歯科治療においても、必要に応じて多種多様な歯科技工物が必要とされている。そのうち乳歯の早期喪失に伴う保隙の概念と目的を理解し、適切な時期に適切な装置により咬合誘導を図るために、各種の保隙装置とスペーススリゲーターの装置の原理、基本構成や製作方法について修得する。また、指しゃぶりなどの口腔習癖の除去に関する装置や、乳歯う蝕での乳歯冠治療、インレー治療による修復法の特徴についても修得する。	主要授業科目
専門分野	歯科技工実習	○	本実習の目的はこれまでの講義・基礎実習の内容に加え、日本歯科大学新潟病院での臨床実習を通して実際の医療現場での歯科技工士の役割、感染制御や医療安全などの必要とされる知識および技能を修得することである。また、実際に製作した補綴装置がどのように患者さんに用いられているのかを体験し、多職種のスタッフとの中で円滑なチーム医療を行うことができる歯科技工士としての総合的な実力を身につける。日本歯科大学新潟病院での先進的な歯科技工システムや専門的な歯科治療における補綴装置の製作など、今後必要となる歯科技工技術についても修得する。	主要授業科目
専門分野	総合講義（専門分野）	○	歯科技工士国家試験を受験するにあたり、今まで科目単位で学んできた知識を専門職として必要な知識、すなわち「歯科技工学」として各自が統合を行う。歯科技工士国家試験を見据え、より深い知識を履修・復習する。最近の国家試験では新規技術導入等による使用材料や技工物作成方法の変化に対応した歯科技工に関する出題もあるため、基礎、臨床を通じて知識のアップデートを講義と演習をセットにした授業形式で実施する。	主要授業科目 オムニバス

学校法人日本歯科大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
日本歯科大学 生命歯学部(6年制)	160	^{2年次} 若干名	960	日本歯科大学 生命歯学部(6年制)	160	^{2年次} 若干名	960	
新潟生命歯学部(6年制)	120	^{2年次} 若干名	720	新潟生命歯学部(6年制)	120	^{2年次} 若干名	720	
計	280	^{2年次} 若干名	1680	計	280	^{2年次} 若干名	1680	
日本歯科大学東京短期大学 歯科技工学科(2年制)	35	-	70	日本歯科大学東京短期大学 歯科技工学科(2年制)	<u>20</u>	-	<u>40</u>	定員変更(△15)
歯科衛生学科(3年制)	70	-	210	歯科衛生学科(3年制)	<u>80</u>	-	<u>240</u>	定員変更(10)
計	105		280	計	<u>100</u>		<u>280</u>	
日本歯科大学新潟短期大学 歯科衛生学科(3年制)	50	-	150	日本歯科大学新潟短期大学 歯科衛生学科(3年制)	50	-	150	
				歯科技工学科(2年制)	<u>20</u>	-	<u>40</u>	学科の設置(認可申請)
計	50		150	計	<u>70</u>		<u>190</u>	